

# 1 What Is Enumerative Combinatorics?

## 1.1 How to Count

$i$  が動くとき，有限集合  $S_i$  の要素数  $f(i)$  を数えるとする． $f(i)$  がどのような形で表されれば「数えた」といえるだろうか？

1. 完全に陽な閉じた式で表され，よく知られた関数のみを含み，総和記号を含まない形．
2. 漸化式．
3.  $f(i)$  を計算するある程度効率的なアルゴリズム．
4. 漸近的な評価．
5. 母関数．

### 1.1.1 母関数の扱いについて

通常型母関数：

$$\sum_{n \geq 0} f(n)x^n.$$

指数型母関数：

$$\sum_{n \geq 0} f(n) \frac{x^n}{n!}.$$

これらは形式的べき級数．

$x$  が何かの値をとるわけではなく， $x^n$  や  $x^n/n!$  は  $f(n)$  が書かれる場所に過ぎない．

$F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$  であるとき， $a_n$  は  $F(x)$  における  $x^n$  の係数といい，

$$a_n = [x^n]F(x)$$

と表す．  $F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n / n!$  に対しては，

$$a_n = n! [x^n] F(x)$$

と表す． また，形式的に  $a_0 = F(0)$  と表す．

複変数の母関数の例：

$$\sum_{l \geq 0} \sum_{m \geq 0} \sum_{n \geq 0} f(l, m, n) \frac{x^l y^m z^n}{n!}.$$

( $l, m$  について通常型,  $n$  について指数型)

変数は無限個あってもよいが，どの項も無限個の変数を含んではならない． 例： $x_1 + x_2 + x_3 + \cdots$ ．

和・積は次に従う．

$$\begin{aligned} \left( \sum_{n \geq 0} a_n x^n \right) + \left( \sum_{n \geq 0} b_n x^n \right) &= \sum_{n \geq 0} (a_n + b_n) x^n, \\ \left( \sum_{n \geq 0} a_n \frac{x^n}{n!} \right) + \left( \sum_{n \geq 0} b_n \frac{x^n}{n!} \right) &= \sum_{n \geq 0} (a_n + b_n) \frac{x^n}{n!}, \\ \left( \sum_{n \geq 0} a_n x^n \right) \left( \sum_{n \geq 0} b_n x^n \right) &= \sum_{n \geq 0} \left( \sum_{i=0}^n a_i b_{n-i} \right) x^n, \\ \left( \sum_{n \geq 0} a_n \frac{x^n}{n!} \right) \left( \sum_{n \geq 0} b_n \frac{x^n}{n!} \right) &= \sum_{n \geq 0} \left( \sum_{i=0}^n \binom{n}{i} a_i b_{n-i} \right) \frac{x^n}{n!}. \end{aligned}$$

$\mathbb{C}$  係数の形式的べき級数全体が成す環を  $\mathbb{C}[[x]]$  と表す．  $m$  変数  $x_1, \dots, x_m$  の場合は  $\mathbb{C}[[x_1, \dots, x_m]]$  と表す． これらは一意分解環 (unique factorization domain) をなす．

$F(x)G(x) = 1$  であるとき，  $G(x) = F(x)^{-1}$  と表す．  $F(x)^{-1}$  が存在するための必要十分条件は  $F(0) \neq 0$  である．  $F(x)^{-1}G(x) = G(x)/F(x)$  と表

す.  $(F(x)G(x))^{-1} = F(x)^{-1}G(x)^{-1}$ ,  $(F(x)^{-1})^{-1} = F(x)$  が成り立つ (それぞれ  $(\cdot)^{-1}$  が存在する場合).

**例 1.1.5.**  $\alpha \in \mathbb{C} \setminus \{0\}$  とする.  $\left(\sum_{n \geq 0} \alpha^n x^n\right)(1 - \alpha x) = 1$  より,

$$\sum_{n \geq 0} \alpha^n x^n = \frac{1}{1 - \alpha x}.$$

原則として, 形式的べき級数を関数とみなしたときに成り立つ等式は, 形式的べき級数の等式としても成立する (式が形式的べき級数としても well defined である場合に限る).

**例 1.1.6.** 等式

$$\left(\sum_{n \geq 0} \frac{x^n}{n!}\right) \left(\sum_{n \geq 0} (-1)^n \frac{x^n}{n!}\right) = 1 \quad (1)$$

は関数論的には正しい ( $e^x e^{-x} = 1$ ). すなわち, 任意の  $x \in \mathbb{C}$  について

$$\sum_{n \geq 0} \left(\sum_{k=0}^n (-1)^k \binom{n}{k}\right) \frac{x^n}{n!} = 1$$

が成り立つので, 係数を比較して

$$\sum_{k=0}^n (-1)^k \binom{n}{k} = \delta_{0n}$$

である. したがって式 (??) は形式的べき級数に関する等式としても正しい.

**例 1.1.7.** 等式

$$\sum_{n \geq 0} \frac{(x+1)^n}{n!} = e \sum_{n \geq 0} \frac{x^n}{n!}$$

は関数論的には正しい ( $e^{x+1} = e \cdot e^x$ ) が, 左辺は  $\mathbb{C}[[x]]$  の元でないため, 形式的べき級数に関する主張にはならない. 例えば左辺の定数項は  $\sum_{n \geq 0} 1/n!$  であり, この級数は  $\mathbb{C}[[x]]$  においては収束しない.

次の条件が成り立つとき, 形式的べき級数の列  $F_1(x), F_2(x), \dots$  が  $F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$  に収束するという:

$$\forall n \geq 0, \exists \delta(n) \text{ s.t. } \forall i \geq \delta(n), [x^n]F_i(x) = a_n.$$

このことを  $F_i(x) \rightarrow F(x)$  や  $\lim_{i \rightarrow \infty} F_i(x) = F(x)$  と表す.

非零な形式的べき級数  $F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$  の**次数**  $\deg F(x)$  を

$$\deg F(x) = \min\{n : a_n \neq 0\}$$

で定める ( $\deg 0 = \infty$  っぽい).  $\deg F(x)G(x) = \deg F(x) + \deg G(x)$  に注意. これを用いると,  $F_i(x)$  が収束する条件は

$$\lim_{i \rightarrow \infty} \deg(F_{i+1}(x) - F_i(x)) = \infty$$

と表せる. また,  $F_i(x)$  が  $F(x)$  に収束する条件は

$$\lim_{i \rightarrow \infty} \deg(F(x) - F_i(x)) = \infty$$

とも表せる.

**命題 1.1.8.** 無限級数  $\sum_{j \geq 0} F_j(x)$  が収束するための必要十分条件は

$$\lim_{j \rightarrow \infty} \deg F_j(x) = \infty.$$

証明.  $\tilde{F}_i(x) = \sum_{j=0}^i F_j(x)$  とすると,  $\deg(\tilde{F}_{i+1}(x) - \tilde{F}_i(x)) = \deg F_{i+1}(x)$ . □

**命題 1.1.9.** 無限積  $\prod_{j \geq 1} (1 + G_j(x))$  ( $G_j(0) = 0$ ) が収束するための必要十分条件は,

$$\lim_{j \rightarrow \infty} \deg G_j(x) = \infty.$$

証明.  $\tilde{G}_i = \prod_{j=1}^i (1 + G_j(x))$  とすると,

$$\begin{aligned} \deg(\tilde{G}_{i+1} - \tilde{G}_i) &= \deg \frac{\tilde{G}_{i+1} - \tilde{G}_i}{\tilde{G}_i} \quad (\tilde{G}_i^{-1} \text{ の定数項は非零}) \\ &= \deg \left( \frac{\tilde{G}_{i+1}}{\tilde{G}_i} - 1 \right) \\ &= \deg G_{i+1}(x). \end{aligned}$$

□

$F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$  は  $F_j(x) = a_j x^j$  の無限級数ともみなせる.

$F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$  と  $G(0) = 0$  を満たす  $G(x)$  について, **合成**  $F(G(x))$  を

$$F(G(x)) = \sum_{n \geq 0} a_n G(x)^n$$

で定める.

**例 1.1.10.**  $F(x) \in \mathbb{C}[[x]]$  が  $F(0) = 0$  を満たすとき,  $\lambda \in \mathbb{C}$  について

$$(1 + F(x))^\lambda = \sum_{n \geq 0} \binom{\lambda}{n} F(x)^n$$

と定義する. ただし  $\binom{\lambda}{n} = \lambda(\lambda - 1) \cdots (\lambda - n + 1)/n!$ .

$F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$  について, 形式的導関数  $F'(x)$  (または  $\frac{dF}{dx}$  や  $DF(x)$ ) を

$$F'(x) = \sum_{n \geq 0} n a_n x^{n-1} = \sum_{n \geq 0} (n+1) a_{n+1} x^n$$

で定める. 次の成立が確認できる:

$$\begin{aligned} (F + G)' &= F' + G', \\ (FG)' &= F'G + FG', \\ F(G(x))' &= G'(x)F'(G(x)). \end{aligned}$$

**例 1.1.11.**  $F(0) = 1$  とし、次を満たす形式的べき級数  $G(x)$  をとる：

$$G'(x) = \frac{F'(x)}{F(x)}, \quad G(0) = 0.$$

関数論的にこの条件を  $F(x)$  について解くと、

$$F(x) = \exp G(x) \tag{2}$$

が得られる。ただし

$$\exp G(x) = \sum_{n \geq 0} \frac{G(x)^n}{n!}$$

と定める。式 (??) は形式的べき級数の等式としても正しい。

証明.  $F(x)$  の係数を動かすことを考える。

$$\begin{aligned} F(x) &= 1 + \sum_{n \geq 1} a_n x^n, \\ G(x) &= \sum_{n \geq 1} b_n x^n, \\ \exp G(x) &= 1 + \sum_{n \geq 1} c_n x^n \end{aligned}$$

とおく。各  $b_n$  は有限個の  $a_i$  の多項式なので、 $c_n$  も有限個の  $a_i$  の多項式である。

$$c_n = p_n(a_1, a_2, \dots, a_m)$$

とおく。各  $a_i$  の値を適当に定めると、原点の近傍  $U \subseteq \mathbb{C}$  であって  $U$  上で  $1 + \sum_{n \geq 1} a_n x^n$  が収束するようなものがとれる。 $U$  上で  $F(x) = \exp G(x)$  が成り立つので、これらの  $a_i$  の値に対して  $a_n = c_n = p_n(a_1, \dots, a_m)$ 。

したがって、 $\mathbb{C}^m$  の近傍で  $p_n(a_1, \dots, a_m)$  が  $a_n$  に一致するので、これらは多項式として等しい。よって任意の  $a_i$  について  $a_n = p_n(a_1, \dots, a_m) = c_n$  であり、 $F(x) = \exp G(x)$  が形式的べき級数の等式として成立する。  $\square$

**例 1.1.12.**  $a_0 = a_1 = 1$ ,  $a_n = a_{n-1} + a_{n-2}$  ( $n \geq 2$ ) について, 母関数  $F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$  の簡単な式を求める.

$$\begin{aligned}
 F(x) &= 1 + x + \sum_{n \geq 2} a_n x^n \\
 &= 1 + x + \sum_{n \geq 2} (a_{n-1} + a_{n-2}) x^n \\
 &= 1 + x + x \sum_{n \geq 2} a_{n-1} x^{n-1} + x^2 \sum_{n \geq 2} a_{n-2} x^{n-2} \\
 &= 1 + x + x(F(x) - 1) + x^2 F(x)
 \end{aligned}$$

より, これを  $F(x)$  について解いて

$$F(x) = \frac{1}{1 - x - x^2}$$

を得る.

**例 1.1.13.**  $a_0 = 1$ ,  $a_{n+1} = a_n + n a_{n-1}$  ( $n \geq 0$ ) について, 母関数  $F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n / n!$  の簡単な式を求める.

$$\begin{aligned}
 \sum_{n \geq 0} a_{n+1} \frac{x^n}{n!} &= \sum_{n \geq 0} a_n \frac{x^n}{n!} + \sum_{n \geq 0} n a_{n-1} \frac{x^n}{n!} \\
 &= \sum_{n \geq 0} a_n \frac{x^n}{n!} + \sum_{n \geq 1} a_{n-1} \frac{x^n}{(n-1)!},
 \end{aligned}$$

すなわち

$$F'(x) = F(x) + x F(x)$$

である. これを例 1.1.11 と同様に解いて,  $F(x) = \exp(x + \frac{1}{2}x^2)$ .